

# 神奈川県の記事概要

## ～神奈川県立こども医療センター～



## ～神奈川モデル「こどものこころのケアネットワーク事業」～

### 【1】地域概要

- ・児童数(0～19歳): 1,464,648人 (神奈川県人口統計調査、R4年1月)
- ・児童精神科系医師数: 不詳

### 【2】機関概要

- ・機関名: 神奈川県立こども医療センター  
(430床 うち、精神科病棟40床、障害児入所施設90床)
- ・事業実施科名: 児童思春期精神科、臨床心理科
- ・事業開始年: H20年。H29年度に終了し、H30年から独自事業を開始
- ・子どもの心の診療機関マップ: 登録施設数75(R4年10月)

### 【3】事業実施への経緯

- ・以前より小児専門総合病院の児童思春期精神科として地域の関係機関と緊密な連携をしていたところ、事業開始の情報を得て当センターから県に打診して委託を受け、H20年度途中から「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」を、H23年度からは「子どもの心の診療ネットワーク事業」を実施した。H29年度をもって県が事業への参画を終了したため、H30年度からはオブザーバー施設として参画を継続するとともに、当センターで独自に「こどものこころのケアネットワーク事業」を実施している。



# 【4】事業図



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
神奈川県立

**こども医療センター**  
Kanagawa Children's Medical Center



【研修・育成】  
児童思春期精神科セミナー

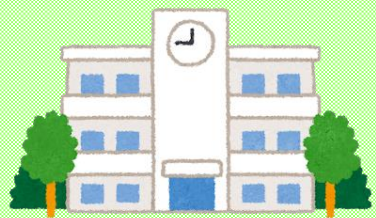
【普及啓発・情報提供】  
公開講座



専門職・関係者・一般県民



【診療支援・連携】  
連携会議・コンサルテーション等



地域の医療・保健・教育・福祉・司法・行政等の関係機関



## 【5】実施事業の概要

### ①普及啓発・情報提供のための事業

- ・ホームページの運営：事業概要、セミナー、公開講座等の案内や、講演録等の資料を掲載
- ・公開講座：一般県民を対象とした講演会

### ②診療支援・連携のための事業

- ・児童思春期精神科地域コンサルテーション：当センター、地域の児童相談所、学校等でおこなうコンサルテーション
- ・児童福祉施設等児童精神科医療コンサルテーション：施設の依頼に応じた当センター多職種によるコンサルテーション
- ・神奈川児童青年期精神科入院医療を考える会：入院治療をおこなっている児童精神科医療機関のケース検討や情報交換
- ・神奈川こどものこころの看護交流会：おもに児童精神科医療に携わる看護師の研修、情報交換
- ・福祉・医療連絡会：児童福祉施設、児童相談所等の福祉機関とのケース検討や情報交換
- ・教育・医療連絡会：小中学校教員を対象とした児童精神科医による講義と、児童精神科病棟、当センター併設の養護学校等の見学
- ・連携会議：児童心理治療施設、児童相談所との情報交換、ケース検討等
- ・小児摂食障害入院連携システムの運営：関係医療機関との小児摂食障害患者の入院依頼の調整

### ③こどものこころの診療関係者研修・育成のための事業

- ・児童思春期精神科セミナー：医療、保健、福祉、教育、司法、行政等の専門職を対象としたセミナー
- ・研修生・学生の受け入れ：法務技官、医学生、心理学生等の受け入れ

### ④その他

- ・子どもの心の診療ネットワーク事業へのオブザーバー参加



こどものこころの  
ケアネットワーク事業

## 【6】特徴や特に力を入れている事業内容

- ・児童福祉施設等児童精神科医療コンサルテーションでは精神医学的な診立てや援助方法の助言、対応する施設職員のエンパワメントに取り組んだ。また、全てのケースの振り返りを多職種でおこない、その成果を学会にて公表した。
- ・児童思春期精神科セミナーと公開講座はこれまでの実施後のアンケートに書かれた希望や、最近しばしば注目されるトピックスをテーマに取り上げた。広報先を広げて新たな参加者を募り、COVID-19感染対策とアクセス向上のためオンライン配信もおこなった。

## 【7】地域や関係機関との連携の状況

事業名	R1年度の実施回数・参加者	R2年度の実施回数・参加者	R3年度の実施回数・参加者
公開講座	46名	627名（web、期間限定配信）	900名（web、期間限定配信）
児童思春期精神科 地域コンサルテーション	132回／707名	107回／666名	100回／600名
児童福祉施設等児童精神科 医療コンサルテーション	14施設／157名	9施設／105名 （web併用）	13施設／147名 （web併用）
神奈川児童青年期精神科 入院医療を考える会	—	10施設／44名（web）	13施設／65名（web）
神奈川こどものこころの 看護交流会	—	—	7施設／30名（web）
福祉・医療連絡会 教育・医療連絡会	教育：97名（3回計）	—	—
連携会議	児童心理治療施設：68名（2回計） 児童相談所：32名 教育・医療・福祉機関：120名	児童心理治療施設：30名（web）	児童心理治療施設：70名 （web・対面、2回計）
児童思春期精神科セミナー	317名	339名（web）	170名（web）
研修生・学生の受け入れ	法務技官12、医学生97、臨床 心理学院生2、児童学院生1	法務技官12、医学生76、児童学 院生1、子ども心理学科生7	医学生101、臨床心理学 院生1、子ども心理学科生15

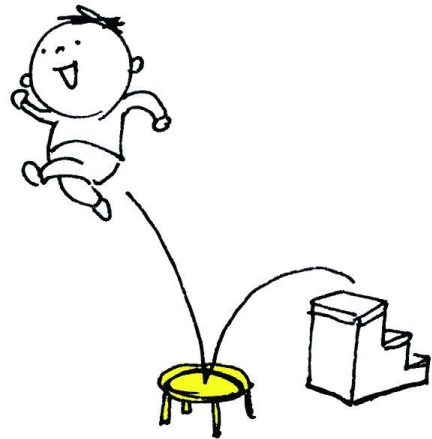
## 【8】事業による効果と思われるもの(H28-30年度からの改善点など)

- ・児童福祉施設等コンサルテーションの実施後のアンケート調査の結果、施設からは高い評価が得られており、症状や問題行動への対応方法や医療的な診立て等の適切な話し合いが実施できたと思われる。同時に、当センター職員が不適切な養育を受けたこどもの対応等を施設職員から教わる機会ともなっており、その知見を日々の診療に活かすことができている。
- ・児童思春期精神科セミナーや公開講座の参加者は児童精神科医療関係者に留まらず、教員や保育士、子育て支援員等の様々な分野の専門職に広がっており、こどもの支援のためのネットワークがより拡充しつつある。
- ・COVID-19の影響により、会議形式のコンサルテーションや連携会議、講演形式の公開講座や児童思春期精神科セミナー等のいくつかの事業をオンラインで実施し、多忙や遠方といった状況下にあってもアクセスがしやすく、お互いに負担の少ない新しい連携の在り方を形作ることができた。



## 【9】目指す方向性について (今後の予定事業や展望、目標など)

～神奈川モデル「こどものこころのケアネットワーク事業」の発展を目指して～



H30年度から神奈川県立こども医療センターのオリジナルの事業として「こどものこころのケアネットワーク事業」を開始して4年が経過した。それまでの「子どもの心の診療ネットワーク事業」での実践を概ね踏襲した上で、更なるネットワークの発展を目指した事業展開を試みているが、残念なことに開始2年目の終わり頃にCOVID-19のパンデミックが起これ、予定していた企画が中止になるとともに、その後から現在に至るまで、感染対策に細心の注意を払った不自由な事業運営を強いられている。そうした厳しい状況においても、規模や方法こそ変更が生じたものの、事業は継続して実施できただけでなく、オンラインという様々な活用の可能性のあるネットワーク作りのツールを導入したり、看護師の自由な情報交換を目的とした「神奈川こどものこころの看護交流会」を事業の一環として新たに立ち上げたりと、今後への前向きな取り組みが既に始まっている。COVID-19の収束後もオンラインは継続、併用をしていく予定であり、関係者の利便性にも配慮しながら、時機や必要に見合った更なる事業の充実を図っていきたい。